

募集の方向性

来年度のテーマは、港区らしい多様性を視点に取り入れ、限定要素にフォーカスされた景観ではなく、様々な要素が抽出された景観が応募されることをねらい、港区らしさを広める効果を期待する。

※港区らしい多様性

港区は、独特の地形、緑のネットワーク、豊かな水辺、最先端の構造物などが、対極するものが調和することでも、港区らしい多様性を作り上げている。

テーマ案	「港区らしい、いろどり豊かな景観スポット」
<p><応募される景観のイメージ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オフィスビルと生活感のある住宅 ・ 新しい街と味わい深い歴史的建物 ・ 高架橋とうるおいある緑や水辺 	

※選択応募部門は、港区景観計画に示す「景観形成の基本方針」を元にしており、区の代表的な景観特性でもあることから、一定の応募件数が見込めるため、従来通りとする。

【選択応募部門】

1. 風情ある坂道や階段、斜面に沿った緑地など、**自然・地形を感じる景観**
2. 昔ながらの雰囲気や寺町の風情など、味わい深い**歴史・文化を感じる景観**
3. にぎわいのある通り、美しい並木道など、回遊したくなる楽しい**通りの景観**
4. お洒落なしつらえ、印象的で足を止めたくなるような、**街かどの景観**
5. 海辺や運河・河川沿いなど、うるおいある**水辺の景観**
6. 地域の身近な**ランドマーク景観**
7. その他（「祭り・マルシェ等のにぎわいある景観」など）

(参考) 港区景観計画に示す「景観形成の基本方針」

3 景観形成の基本方針

港区の景観特性及びこれまでの景観に関する取組を踏まえ、景観形成の基本方針として、良好な景観の実現に向けた取組の基本的な方針を以下に示します。なお、この基本方針を景観法第8条第3項に規定する良好な景観の形成に関する方針とします。

「港区まちづくりマスタープラン」では、「人にやさしい良質な都市空間・居住環境を、皆で維持し、創造し、運営していく」という基本理念のもと、概ね20年後を目標とした「将来都市像」を「やさしさとかがやきの生活都心」として示しています。この将来都市像は、景観をはじめとした様々な要素から総合的に形成されるものであることから、景観形成の基本方針についても、これらと整合を図ったものとしています。

景観形成の基本方針

基本方針1 水と緑のネットワークを強化し、潤いある景観形成を進める

基本方針2 歴史や文化を伝える景観を守り、生かす

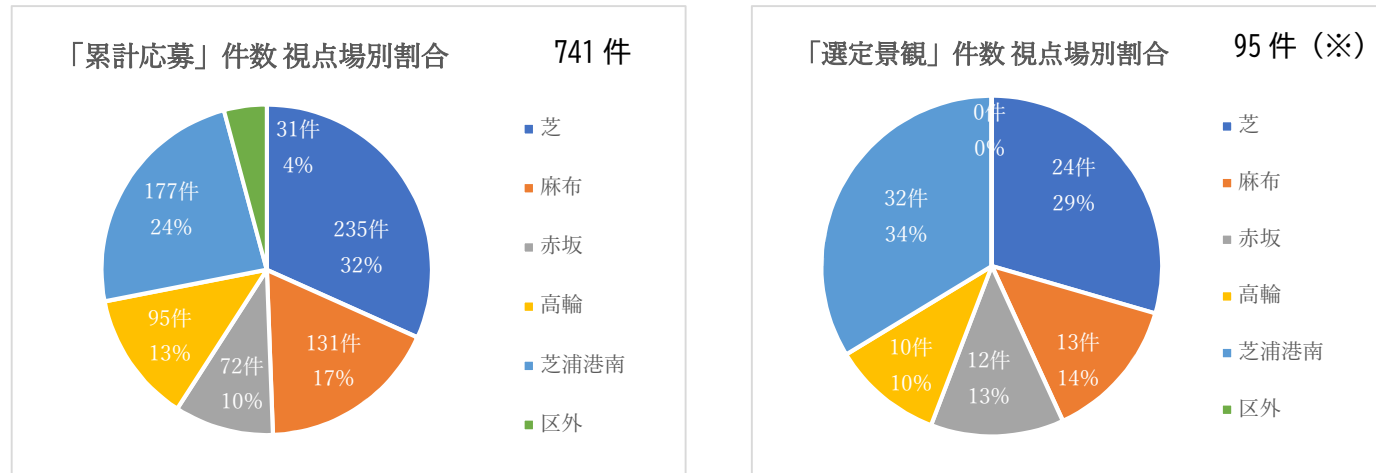
基本方針3 誰もが楽しく歩ける、にぎわいや風格のある通りを創る

基本方針4 地域の個性を生かした魅力ある街並みを育む

基本方針5 区民・企業等・行政の協働で景観形成を推進する

●第1～7回 港区区民景観セレクションの分析結果から

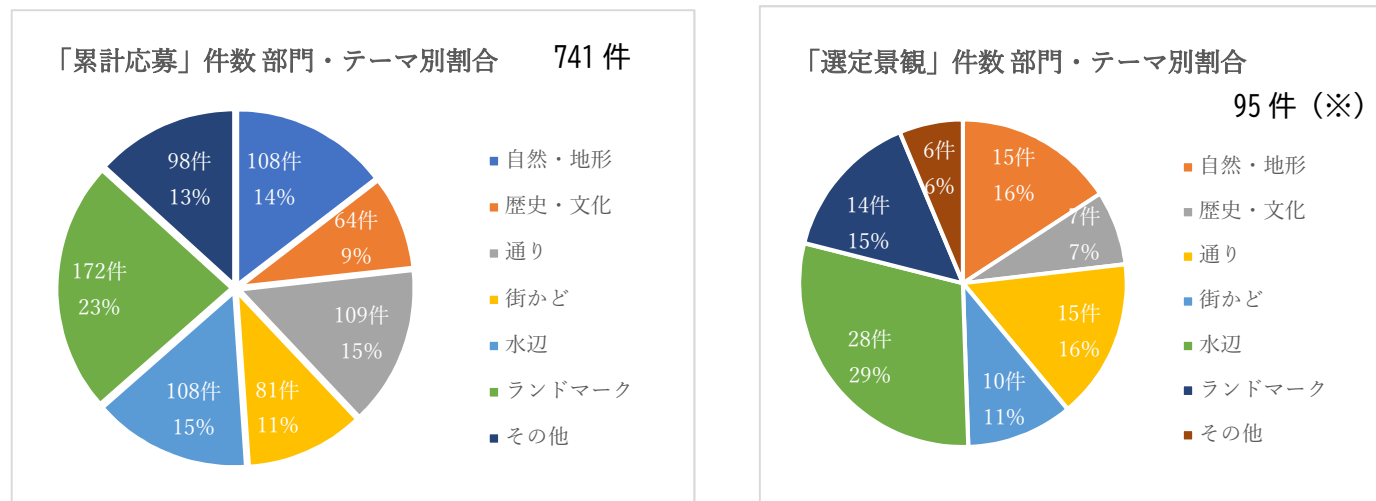
※95件＝セレクションに選ばれた応募景観の件数のため、公表しているセレクション68件と数が一致しない。



- ・芝地区、芝浦港南地区の応募が多い
- ・選ばれた景観も芝地区、芝浦港南地区が多い

⇒近年第5回～第7回までの地区別応募数を比較すると、麻布地区、赤坂地区、高輪地区における景観の応募が増えている。

	芝	麻布	赤坂	高輪	芝浦港南	区外・不明	合計
第5回	24	10	7	8	44	8	101
第6回	47	24	12	16	37	3	139
第7回	43	35	20	18	34	12	162



- ⇒「ランドマーク」の選定件数の割合が高い。
- その他の選定件数の割合は「自然・地形」「通り」「水辺」が、概ね似た結果となっている。
- 「歴史・文化」、「街かど」の選定件数が少ない。
- ※第6回のメインテーマ「通り・街かどの景観」は「通り」として集計。
- ⇒100選に到達した際にそれらの紹介にあたって、多様な景観特性を発掘したい。
- 「歴史・文化」「街かど」に関連するキーワードの設定が有効か？

●今までの募集チラシと応募件数

第1回 (32件)

第2回 (86件)

第3回 (107件)

第4回 (108件)

第5回 (101件)

第6回 (139件)

第7回 (162件)